

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	9
➤ 研究・事例・サイト紹介	10
➤ 会議・イベント案内	11
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	11
➤ 会員募集中	12

巻頭書記

JRRN では国内の河川再生事例をホームページに掲載しています。今年度は海外の河川再生事例を中心に収集し、徐々に国内外の様々な事例情報が蓄積してきました。JRRN では、これらの情報をみなさんにどのように届けられるか、有用となる情報の公開・共有方法を検討して行く予定です。その1つとして現在作業中の案件がありますので、また後日報告させていただきます。

本号では、第7回 JRRN ミニ講座の開催及び中国湖北省からの視察団との交流について報告します。また、会員からの投稿記事2件とサイト紹介として「川ガキ」写真家・村山嘉昭さんのホームページをご紹介します。引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

第7回 JRRN ミニ講座「台湾の河川事情～台風被災からの教訓と治水対策」(平成22年12月21日) 開催報告

平成22年12月21日(火)、(財)リバーフロント整備センター会議室にて、第7回JRRN河川環境ミニ講座を開催致しました。

今回は、莊曜成・台湾經濟部水利署河川海岸部科長を講師としてお招きし、「台湾の河川事情～台風被災からの教訓と治水対策」をテーマにご講演頂くとともに、参加者との活発な情報交流を行いました。

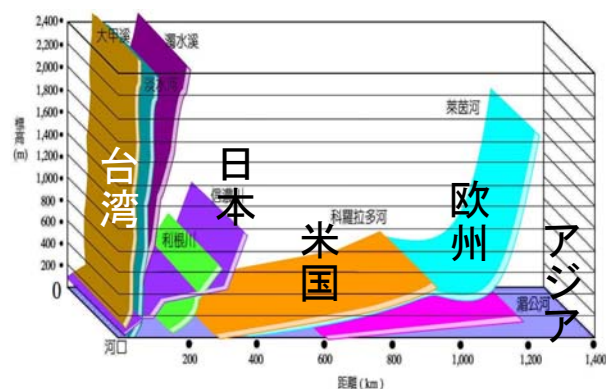
これまでJRRNでは、台湾の水環境に関わる幅広い分野の方々と技術交流を行ってきており、台湾經濟部水利署とも昨年度に実務者研修の一環で交流を行っています。今回は、台湾からの情報提供を主体に意見交換を行い、JRRNとして技術情報を蓄積するとともに、皆様へ共有していきたいという意向から、ミニ講座とし

て開催するに至りました。台湾經濟部水利署から3名にお越しいただき、ご講演をいただいた莊曜成氏は、河川海岸部科長として、主に洪水防御・排水計画に従事しているとのことでした。



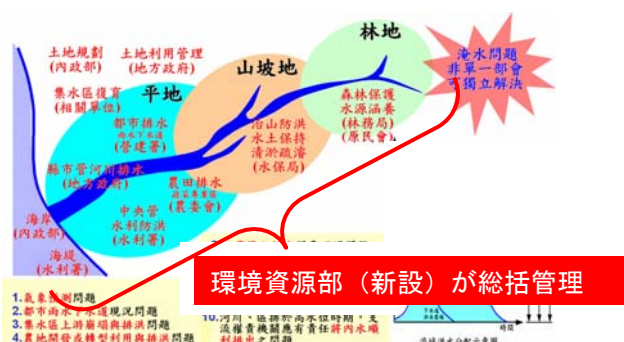
講演の様子

台湾の河川は、日本の河川と同様、延長が短く、急勾配であることに加え、台風の上陸頻度も高いことから、度々大水害を被っています。また、土砂災害、都市水害、地域間の水資源量の格差、地下水の過剰採取による地盤沈下など、日本の河川・流域事情とも共通する様々な水問題を抱えています。



世界の河川の勾配

多様な水問題に加え、気候変動による影響に適応するため、流域が一体となった取り組みが進められています。台湾では、流域のそれぞれで治水政策を行っている所管が異なっていますが、今後、「環境資源部」を新設し、その部署が上流から下流までを総括して管理するとのことでした。



台湾の河川・流域管理（体制）の状況

また、近年の台風被害の教訓として、台湾でも日本と同様に、ハード整備＋ソフト対策による総合治水を重要視しており、以下のようないくつかの基本理念が示されました。

- ハード施設の安全基準を確保（堤防を破堤させない）
 することを基本とし、ソフト対策の組み合わせで減災を図る。
- 安全基準の設定方法（水文分析手法）を見直す。

○治水政策は、行政やエンジニアの計画案だけではなく、住民との合意形成が得られ、かつ実行可能な計画を実施する。

具体例として、土地利用規制や人工調節池（遊水地）構想、Google Earthを用いたリアルタイム防災情報システムなどが示されました。



Google Earthを用いた防災情報図

講演後に行なわれた意見交換では、治水安全度の設定の考え方やダムの位置づけなどについて議論が行われました。台湾では、ダムによる治水効果は重要視されていないこと、新たなダム計画は用地問題等から策定していないことなど、日本のダム事情との違いが示されました。

講演の中で、莊曜成氏が「人不可能勝天、也不必勝天（人類は自然に勝つことはできないし、その必要もない）」という治水理念を述べられました。自然を支配できる、そのための完璧な施設を造ることができるという驕りを捨て、「逃げるが勝ち」という考えです。まさしくそのとおりで、これからの社会状況の変化を反映した共感できる言葉でした。日本と同じ島国で、似た風土を持つ台湾の河川事情は、日本と共通する部分が多く、一方では異なる部分があることもわかり、有意義な情報交流となりました。

今回のミニ講座は、台湾經濟部水利署の方々の方々の来日に合わせ、急遽ご講演を依頼して実現したため、皆様へのご案内を十分にすることが出来ませんでした。よって、成果はよりわかりやすい形で情報提供していきたいと考えております。今後もJRRN活動への皆様のご参加をお待ちしております。

（JRRN事務局 後藤勝洋）

JRRN 活動報告(2)

中国湖北省水利庁視察団の来日支援報告(2011 年 1 月 11 日～13 日)

日本の河川・水環境管理全般についてその考え方や技術情報の収集を目的に、中国湖北省水利庁の副庁長を団長とする河川視察団（8名）が来日し、2011年1月11日（火）～13日（木）の三日間、JRRN事務局及び国内関係機関・現地施設管理者・専門家と交流を行いました。



中国湖北省視察団とJRRN事務局との記念撮影
（(財) リバーフロント整備センター会議室）

< 交流行事の概要 >

- 1/11（火）午後：JRRN事務局意見交換
（河川環境改善全般について）
- 1/12（水）午前：綾瀬川及び桑袋浄化施設見学
（河川水質浄化・ビオトープについて）
午後：社団法人日本河川協会意見交換
（河川管理全般について）
- 1/13（木）午前：池田駿介・東京工業大学名誉教授
意見交換（ダム管理について）
午後：東京都落合水再生センター見学
（下水処理及び再生水利用について）

各視察先では河川管理や水環境改善の取組みを中心に視察団と受入先関係者との活発な意見が交わされ、JRRN事務局が各視察受入先との調整役を担いました。中国湖北省水利庁の概要及び視察交流の様子をご紹介します。

中国湖北省及び水利庁の概要

中国湖北省は長江中流域に位置し、面積が約20万km²、総人口約6千万人（中国全体の約5%）で、省都は武漢市です。湖北省は「千湖之省」とも呼ばれ、省内には960を超える湖沼があり、その総面積は約3,000km²。また長さ5km以上の河川が4,000以上も存在し、完成堤防延長は約3,000km、更に約5,000のダムを有し、中国の中でも特に水との関わりが強い地域です。

湖北省水利庁は、長江の本川（中央政府が管理）及び副省級市（特別行政区）である武漢市内（武漢水務局が管理）を除く、湖北省全地域の以下の水関連業務全般を担っています。

湖北省水利庁が担う業務

- (1) 水資源計画策定、地方立法
- (2) 水資源管理、供給計画、利用料金徴収
- (3) 節水政策立案
- (4) 水質、水環境管理
- (5) 水関係紛争の法的解決（調停）
- (6) 水関係経済管理(税金、料金策定など)、発電関連
- (7) ダム計画
- (8) 河川、ダム、湖沼など水域、護岸の安全管理
- (9) 農業用水、農村水電管理
- (10) 斜面等流失対策、観測と防止対策（土砂管理）
- (11) 水関係の技術普及と教育活動
- (12) 洪水対策、干ばつ対策



JRRN 事務局との意見交換（1 月 11 日午後）



JRRN事務局との意見交換
（(財) リバーフロント整備センター会議室）

JRRN事務局との交流では、はじめにJRRN、ARRN、及び事務局を担う財団法人リバーフロント整備センターの組織概要と主な活動内容を紹介し、日本の河川管理全般について説明しました。続いて湖北省からは、湖北省の概要に加え、湖北省水利庁が最優先で克服すべき水資源管理上の課題として、治水及び水環境改善に関する現状や技術に関する説明が行われ、開発と環境の両立という中国が現在抱える最大の課題に対する様々な意見交換がなされました。

■ 綾瀬川及び足立区桑袋ビオトープ公園視察（1月12日午前）

足立区桑袋ビオトープ公園内には、あやせ川清流館と桑袋浄化施設が併設されており、綾瀬川の水質浄化の取り組みや施設の概要について詳しく説明していただけます。2009年にも湖北省水利庁から視察団が来日し、その時と同様に視察のリクエストをいただきました。

初めに国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所調査課から綾瀬川の水質の変遷、公園内にある桑袋浄化施設の仕組みや働きについてご説明いただきました。綾瀬川清流ルネッサンスⅡでは、2010年の目標達成を目指しており、今年が評価の年になるそうです。視察団は、施設の運営コストや浄化可能な水量など具体的な数値に関心を持たれていました。

次に桑袋ビオトープ公園のインタープリターの方から、ビオトープ概要や地域を巻きこみながらの管理とともに環境教育活動についてご紹介いただき、最後に質疑応答を行いながら公園内を周りました。



浄化後の水が流れる伝右川



伝右川排水機場

視察団の中には治水のご専門の方も多く、排水機場にとっても興味を持たれていました。今回は予定に入っておらず、残念ながら排水機場内部の見学はできませんでしたが、来年また来日するときにはぜひ見学したいとおっしゃっていました。

■ （社）日本河川協会との意見交換（1月12日午後）



（社）日本河川協会との意見交換
（（社）日本河川協会会議室）

はじめに、（社）日本河川協会は、河川と社会の関係を考えながら河川文化の発展に寄与することを主な目的とし、個人・行政・企業・研究者の情報・意見交換の場を作ることを業務の柱とする旨の組織紹介が行われました。続いて、日本の河川や河川管理全般に関わる質疑応答として、日本の河川管理の方法と体制、日本の河川の特徴、ダムの管理技術や課題、洪水予警報体制、堤防の管理とその技術など、主に治水対策を中心とした意見交換が行われました。

■ 池田駿介・東京工業大学名誉教授との交流（1月13日午前）



池田駿介・東工大名誉教授との意見交換
（（株）建設技術研究所会議室）

視察交流の3日目は、「ダムの再建と管理」をテーマに、池田駿介・東京工業大学名誉教授（株式会社建設技術研究所・技術顧問）との意見交換が行われました。はじめに池田名誉教授より、日本における最近のダム事情として、ダム再建・新規建設・ダム撤去の3点について具体事例とともに解説が行われ、続いて湖北省水利庁視察団より技術や管理に関わる様々な質問がなされました。

■ 東京都下水道局落合水再生センター見学（1月13日午後）



水再生に向けた取り組みの解説
（東京都下水道局落合水再生センター）

首都東京における下水処理や水環境改善に向けた取り組みを視察することを目的に、東京都下水道局落合水再生センターを訪問しました。

東京23区内に13か所ある水再生センターですが、1964年に運転を開始した落合水再生センターでは、現在は全処理水を砂ろ過施設にて高度処理し、神田川、渋谷川・古川、目黒川、呑川などの河川環境が悪化した河川への放流を通じ河川再生に貢献するとともに、新宿副都心高層ビル群のトイレ洗浄用水に活用するなど、貴重な水資源の供給源としての役割も果たしています。

はじめに、落合水再生センターより、施設の概要や東京の下水処理の歩みについてビデオやスライドで詳しく説明が行われ、続いて処理施設へと案内頂き、汚水が再生されていくまでの過程を見学しました。



水再生施設の説明
（東京都下水道局落合水再生センター）

今回のJRRNによる視察支援は、2009年11月に続いて2回目となりますが、3日間の視察支援を通じ、湖北省水利庁が抱える河川管理や水環境改善の課題を知ることができ、またこの解決に参考となる日本の経験を紹介することができました。

なお、今回の交流に際し大変お世話になりました国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所調査課、足立区土木部みどりと講演推進室公園整備課、あやせ清流館、社団法人日本河川協会、池田名誉教授及び東京都下水道局落合水再生センターの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

（JRRN 事務局 沼田彩友美・和田彰）

会員寄稿記事(1)

東京都 勝島運河をきれいに 水質改善実験中！

寄稿者：大堀 照生 （イービストレード(株) 環境事業部・JRRN 会員）

【1】勝島運河と立会川

東京都目黒区と品川区を流れ、東京湾に注いでいる立会川。その河口に位置するのが勝島運河です。

京浜急行立会川駅を降りると、まず目に入るのが立会川にかかる人道橋。そこから左手方向（東側）、川の下流へ向かうと、河口に最も近い浜川橋があります。

江戸時代の浜川橋付近には、土佐藩山内家の下屋敷がありました。また、河口付近には当時土佐藩の管轄だった浜川砲台跡もあり、若かりし頃の坂本龍馬が当地に着任していたことから、NHK 大河ドラマ「龍馬伝」が放映された昨年は特に注目を集めました。駅から浜川橋に向かう商店街には人目を引く龍馬像が凛々しく立ち、町おこしに一役買っています。



商店街に立つ竜馬像



浜川砲台跡

立会川は、かつては小魚やエビが見られるきれいな川でしたが、近代に入ると大部分が暗渠となって水量も減り、昭和後期以降は生活排水によって水質が悪化しました。異臭のする川の水質浄化を目指し、2002年には東京都と JR 東日本が共同で、地下水を立会川に導水する事業を行いました。この事業によって川の水はだいぶきれいになったと言われ、2003年には川にボラの大群が押し寄せ、話題に上った時期もあります。

一方、勝島運河は人工島として作られた勝島の西側に位置します。元々は勝島の東側にある京浜運河と平行して流れる運河でしたが、近年埋め立てが進んだことにより運河の面積が狭まりました。立会川の水が流

れ込み、東京湾からも海水が入り込む汽水域でもあります。

地下水の導水によって一時はきれいになったと思われた立会川ですが、上層の地下水と比重の重い海水が混ざり合わず、河口近くの底層の汚れた水質は改善が進まないままでした。その状況は立会川の中流から下流、勝島運河まで続いており、夏場になると、川から運河にかけて異臭が発生することが多くあります。

満潮時には海水が川の中流まで遡り、干潮時には川の水が注ぐ、立会川と勝島運河。その周辺の水質改善活動には、付近の住民の方々を初めたくさんの方が参加し、様々な活動が試みられています。

【2】水質改善実験内容

2010年11月より、勝島運河において、東京都港湾局との水質改善実験を開始しました。



勝島運河周辺地図(Google 地図データより)

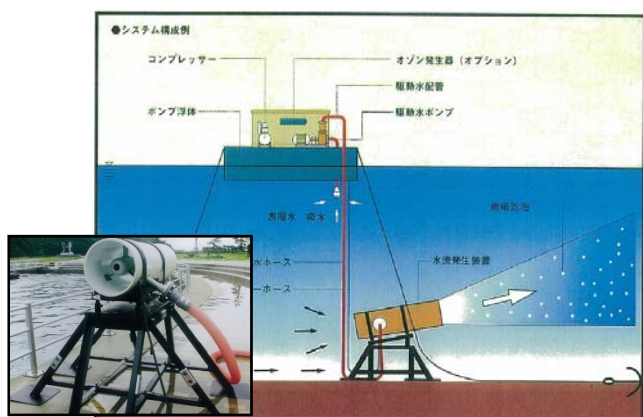
この実験で使用しているのは、水流発生装置「ジェット・ストリーマー」です。ジェット・ストリーマーは大量の水流を発生させる装置で、次のような実験を行っています。

- ① 滞留しがちな水を強制的に循環させる
- ② 水流に低濃度オゾンを添加することで水中に酸素を供給する
- ③ 底層を含めた水質改善の効果を検証する

勝島運河のような閉鎖性の水域では、水が滞留しやすく、底層の水に酸素が行きわたらなくなり、生物が棲める環境でなくなる可能性が大きくなります。無酸素状態になると有機物の分解が行われず、嫌気性菌による嫌気分解が起こり、また、底層に沈んだ栄養塩類等からは硫化物が発生し、硫化水素の悪臭が漂います。健全な湾や河川であれば水に流れがあり、有機物の分解が行われ、悪臭の発生もありません。

また、オゾンには塩素の約 7 倍という強力な酸化促進力があり、殺菌・脱臭等の作用があります。水への溶解量が大きく、水中では分解され酸素に戻る特徴があります。

ジェット・ストリーマーが水流を発生させることによって、勝島運河の底層に酸素が行き渡り、有機物の分解、水環境の健全な循環が行われることが期待されています。



ジェット・ストリーマーの写真と水質改善のしくみ

【3】経過と今後の活動

この実験について、私たちは定期的な観察を行ってきました。写真を撮影し続けて 2 ヶ月。降雨の後などは水が白く濁り、肩を落とすこともありますが、訪れるたびに水鳥の数が増え、水底が見えるほど透明度が向上している日も多くなっています。

水質調査の変化についての結果はまだ出ていませんが、目で見える限りにおいては、少しずつ良い方向に変化していると感じています。

実験は 2011 年 3 月初旬で終了予定です。この 4 ヶ月間で、勝島運河の水質改善にどのくらい役に立てたかが見えてきます。

しかし、何十年もかけて汚れてしまった勝島運河を元の姿に近づけるのは、到底 4 ヶ月で足るものではありません。また、人間の出した生活排水等で汚れてしまった水を自然の状態に戻すには、汚した人間の数以上に沢山の人手が必要です。

当実験にも大勢の関係者の方にご協力頂き、応援を頂いています。

実験現場を訪れた際、付近の住民の方から勝島運河について「昔よりはきれいになったけどね」という言葉を聞きました。いつの日か「昔のようにきれいになったよ」という言葉が耳に届くように、今後もより良い水質改善に取り組んで参ります。



実験場所に設置された看板



□ ジェット・ストリーマーに関する詳細につきましては、下記 URL をご参照下さい。

<http://www.ebistrade.com/environment/index.html>

水辺からのメッセージ No.21

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

夕日に輝く海津浜

海津の文化的景観：代官西与一・左衛門の尽力により地域資産を風波から守った石垣群



撮影：2010年12月（滋賀県高島市マキノ町）

◆海津浜の石積み

海津は古くから琵琶湖の湖上交通の要衝として栄えた宿場町です。
石積みは風波から家屋を守るために江戸時代につくられた“湖岸浪除石垣”です。
（築造 1702 年 東浜 668m、西浜 495m）

◆県で 2 番目の重要文化的景観

2005 年に「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」は文化財保護法の重要文化的景観に指定されました。
地域文化財として社会環境の変化に応じて保存していく動態保存を目指しています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、
JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2011 年 1 月提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■日本の“いい川”シンポジウム&研修会(2/19開催)

2月19日(土)に発明会館・地下ホール(東京都港区)にて開催される「日本の“いい川”シンポジウム&研修会」に関する情報を御提供頂きました。

【プログラム】

- 13:00 開会あいさつ・主旨説明
 13:10 講演「川と景観」(仮題)
 中村 良夫(東京工業大学名誉教授・景観工学)
 14:10 提言と報告(各20分)
 ①「中小河川に関する河道計画の技術基準」
 ②河岸及び護岸設計の考え方
 ③住民参加の目的と役割
 15:10 <休憩 15分>
 15:25 現場からの報告と討論
 ①行政と住民からの報告(4事例・各15分)
 ②全体討論・コーディネーター:島谷 幸宏(九州大学大学院工学研究院教授)
 17:50 閉会・あいさつ

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2532.html>

日本の“いい川”シンポジウム&研修会 ～住民との協働による多自然川づくりの実践～



【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川環境の指標生物学」書籍案内

JRRN 会員である大阪府立大学・谷田一三教授ご執筆の新刊書籍をご紹介します。

- 著者名: 谷田一三
- 出版社: (株)北隆館
- 判型: 197ページ
- 定価: 3,150円(税込)
- 主要目次:
 - 1 河川の指標生物
 - 2 生物指標をめぐって
 - 3 河川における調査法と生物学実習

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/book/professional/02/2496.html>



【海外からの情報提供】

■ECRR ニュースレターの最新号発刊(2010年11-12月号)

ECRR(ヨーロッパ河川再生センター)最新ニュースレターをECRR事務局より送付頂きました。

本号では、ポルトガルにおける2つの河川再生事例の紹介、またオランダ河川研究所(NCR)の年次セミナー報告、欧州における河川再生関連行事などが掲載されています。(英語版)

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2522.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第153回】

- ◆テーマ:「地域の水環境研究から発展した国内外との教育連携」
- ◆講師: 高木裕司(学校法人静岡理科大学 静岡北高等学校 教諭)
- ◆日時: 平成23年2月14日(月)18:00~20:00
- ◆場所: 厚生会館(全国土木建築健保)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2451.html>

【第154回】

- ◆テーマ:「両河の賜物〜ユーフラテス河とティグリス河が育んだ古代メソポタミア文明」
- ◆講師: 小林登志子氏(NHK学園 古代オリエント史講座 講師)
- ◆日時: 平成23年3月15日(火)18:00~20:00
- ◆場所: 厚生会館(全国土木建築健保)

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2487.html>

【海外からの情報提供】

■「2011年 International Riverprize 応募開始」案内

河川に関わる名誉ある賞の一つとして世界的に認められている「国際河川賞(International Riverprize)」の応募開始案内をいただきました。(応募〆切: 2011年3月)

海外の優れた河川再生の取り組みを表彰する国際河川賞は、オーストラリアの政府系 NGO: International Riverfoundationが1999年より始めたプログラムで、2010年はイギリス・テムズ河が受賞し、賞金約2,800万円を獲得しました。

※応募方法等の詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2499.html>

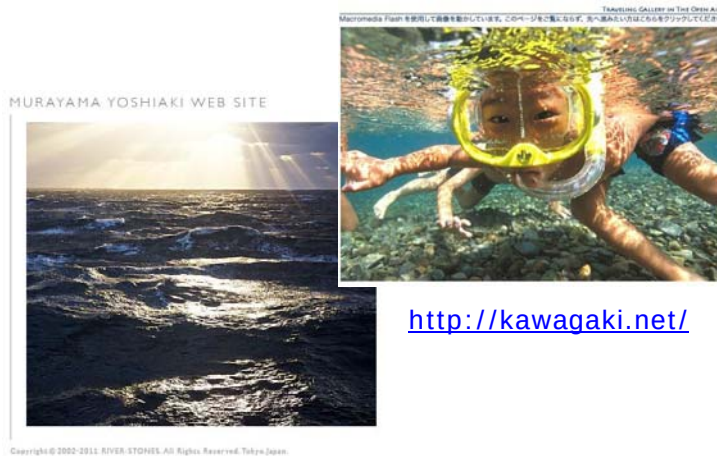


研究・事例・サイト紹介(1)

「川ガキ」写真家・村山嘉昭さんのホームページのご紹介

「川ガキ」水辺に生息する生きもの」の撮影をライフワークに、全国で川ガキ移動写真展を企画主宰する写真家・村山嘉昭さんのホームページ(<http://kawagaki.net/>)をご紹介します。日本のあつべき川の姿を考える上で役立つ素晴らしい写真がたくさん紹介されています。

また、今回の紹介に際し村山様よりメッセージを頂きましたので合わせてご紹介させていただきます。



<http://kawagaki.net/>

<http://www.river-stones.com/>

<村山さんから頂戴したメッセージ>

「川ガキ」と呼んでいる子どもたちをテーマに、各地の子どもたちを撮影して 10 年以上が過ぎました。私が撮影しているのは、自宅からそのまま水辺へ出かける子どもたち。

彼・彼女たちがプールへ出かけることのように当たり前のこととして川で遊ぶことのできる理由のひとつに、地域の大人たちが「川は子どもが遊ぶところ」と認識し、危険な場所をしぜんと子どもたちに教えつつ、必要以上に水辺を危険視しないことがあげられます。そのような地域は川への関心度も高く、国や県によるダム建設や河川工事に対しても必要の是非を問い、川を守っていこうという気風が高いような気がしています。そのため現在においても清流で良好な河川環境が保たれているところが多い。

全国の水辺に「川ガキ」が生息する社会は、きっと今よりも水辺環境が豊かになるはずと思っています。

私の写真を見て、川を身近に感じてくれたのなら、どんなに嬉しいことか。川が好きになり、気付いて欲しい。日本の川の現状を。 村山嘉昭

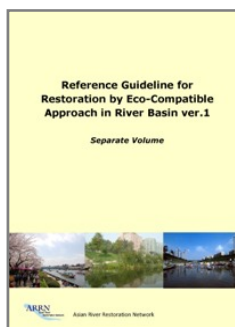
(JRRN 事務局 和田彰)

研究・事例・サイト紹介(2)

「ARRN 河川再生ガイドライン ver.1 別冊事例編(英語版)」及び「ARRN ラウンドテーブル会議討議録(和訳版)」

■ 「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 別冊事例編 (英語版)」(2011.1 発刊)

- ・編集：JRRN 事務局、・発行：ARRN
- ・ダウンロード URL:
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNguideline1-separatevol.pdf>



2009 年 3 月に発刊した「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1」の別冊資料編として、アジア及び欧米の河川・流域再生事例の概要を紹介した再生事例集です。日本・中国・韓国・タイ・イギリス・アメリカの河川再生事例が含まれています。

■ 「ARRN ラウンドテーブル会議録：ネットワーク活動を通じて、河川・流域再生のための技術及びガイドラインをどのように発展させていくべきか? (日本語仮訳版)」(2011.1 発刊)

- ・編集：JRRN 事務局、・発行：ARRN
- ・ダウンロード URL:
<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRNroundtableJap.pdf>



2010 年 9 月 14 日に韓国で開催した ARRN ラウンドテーブル会議の講演録です。日中韓の河川再生ネットワーク及びヨーロッパ河川再生センター会長により今後の技術交流のあり方が討議されています。

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

会議・イベント案内（2011 年 2 月以降）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

■2011 年の「JRRN 河川環境ミニ講座」を企画中

2011 年に開催する「JRRN 河川環境ミニ講座」を現在企画中です。是非聞いてみたいという講師や、関心のあるテーマがございましたら、JRRN 事務局までご意見をお寄せ下さい。（info@arrn.net）

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/>

■2011 年の ARRN 「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は秋頃に東京にて開催予定

本年で 8 回目を迎える ARRN 国際フォーラムは、2011 年 10 月～11 月頃を目標に、4 年ぶりに東京を会場に開催の予定です。プログラム概要が決まり次第、皆様にお知らせします。

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■ 第 15 回荒川流域再生シンポジウム「地域と河川生態系再生の道筋を探る」

○日時：2011 年 2 月 13 日（日）13:00～16:30

○会場：日高市生涯学習センター 2F

○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2538.html>

■ 第 153 回 河川文化を語る会『地域の水環境研究から発展した国内外との教育連携』

○日時：2011 年 2 月 14 日（月）18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：（社）日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2449.html>

■ 日本のいい川・いい川づくりシンポジウム&研修会

○日時：2011 年 2 月 19 日（土）13:00～

○会場：発明会館 地下ホール（東京都港区）

○主催：日本の“いい川”シンポジウム実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2519.html>

■ 第 154 回 河川文化を語る会『両河の賜物～ユーフラテス河とティグリス河が育んだ古代メソポタミア文明』

○日時：2011 年 3 月 15 日（火）18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

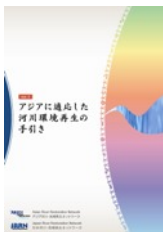
○主催：（社）日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2486.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1（2009.3 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/ARRN_Guideline1_jap.pdf

本手引きをご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3862 / Fax：03-3523-0640

■ 自然と共生した流域圏・都市の再生（2010.12 発刊）

- ・監修：丹保憲仁
- ・編著：「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワークショップ実行委員会
- ・出版社：技報堂出版
- ・発行年月：2010 年 12 月
- ・価格：¥ 2,940 円（税込）
- ・ISBN：978-4765517744



第 4 回から第 8 回までの「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワークショップでの講演内容とともに、「流域から都市・地域環境の再生を考える」をテーマとした座談会の議論をまとめたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

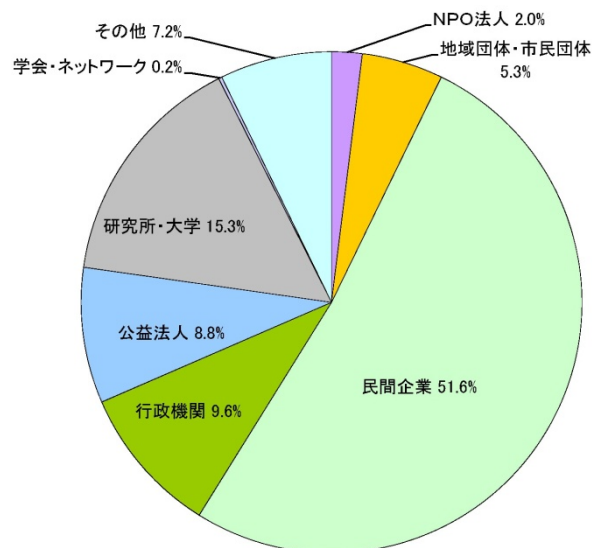
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011 年 1 月 28 日時点の個人会員構成
(個人会員数：467 名、団体会員数：26 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、
(財) リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所が運営を担っています。